

## 1 編集の具体的方針

特別支援学校点字用中学部英語科で使用する教科書は、文部科学省検定済教科書の一つである「NEW HORIZON English Course」（東京書籍）を原典とし、点字を触読する生徒の学習場面を配慮して編集したものである。そのため、教科書の内容は原典にほぼ忠実に点訳したが、絵などを用いた「基本練習」などでは、生徒に理解しやすい形式に改めた。また、イタリック体やゴシック体などの字体の変更は、語句、基本文、WORD LIST の中では省略し、生徒が触読しやすいようにしたので、指導に当たっては、必要に応じて適切な配慮をすることが大切である。表紙裏などの付録の配列順序や、各課の内容の割り付け順序などは、点字触読の観点から多少変更してあるが、主な内容の提示順序は、原典と同じである。

また、「資料編」は、第1巻が「英語点字の入門」（「英語点字略字の解説」を含む。）、第2巻が「英語の基本的知識」、第3巻が「英会話のための用例と単語」、第4・5・6巻は「英和単語集」で構成されている。資料編の内容については、文科省のホームページで詳細をご覧いただきたい。

日本文の点字表記の規則については、日本点字委員会編集・発行の「日本点字表記法2001年版」の本則に従っている。英語の点字表記については、アメリカの国会図書館が発行している“English Braille American Edition”（revised 2002）によるとともに、発音記号については Daniel Jones 式の記号を点字表記したものを使用した。

## 2 編集の具体的内容

### (1) 各巻の分け方

第1学年＝全4巻、第2学年＝全4巻、第3学年＝全6巻とした。

1－1、2及び3 この段階では英語点字略字は使用しなかった。

2－1 この巻から点字略字として1マスの短縮語(One-cell Whole-word Contractions)― but, can, and, child, this などのように単語全体を1マスの記号で表したもの34個を使用した。and, for, of, the, with の短縮語及び a は意味の続き具合に関係なくマスを続けて書くことができるが、この巻からこの原則を取り入れた。

2－2 この巻から2マスの短縮語(Initial-letter Contractions)― day, word, cannot などのように単語全体を前置点と頭文字などを組み合わせた2マスの記号で表したもの33個を追加した。

2－3 この巻から1マスの短縮語(One-cell Part-word Contractions)― and, ch, ble などのように単語の一部の綴り字を1マスの記号で表したもの18個と、2マスの短縮部(Two-cell Final-letter Contractions)― -ound, -ment, -ation のように単語の語中や語尾の綴り字群を、前置点と組み合わせた2マスの記号で表すもの14個を追加した。

3－1 この巻では省略語(Abbreviations)― about, above, could などのような単語を一部の綴り字で表したもの43個を表示し、必要なものから使用した。なお、用法して、これらの省略語を単語の一部として使用する場合を含む。

3－2 この巻では省略語(Abbreviations)― across, myself, receive などのように単

語の一部の綴り字で表したものの33個を表示し、必要なものから使用した。

3-3 この巻から下がり記号の短縮語(Whole-word Lower-sign Contractions)― be, to など単語全体を下がり記号で表すもの9個を使用した。

3-4 下がり記号の短縮部(Part-word Lower-sign Contractions)― dis, -ea-, -bb- のように単語の一部の綴り字群を下がり記号で表すもの10個を追加した。

(2) 各巻における内容の配列

1-1

Greetings around the World 世界のことばでこんにちは、ありがとう

この教科書の主な登場人物

この教科書で学習するみなさんへ

本編

Warm-up

- 1 あいさつ
- 2 教室で使う英語
- 3 アルファベット
- 4 英語の音とつづり
- 5 数字 (number)
- 6 週 (week)
- 7 月日 (date)
- 8 色 (color)
- 9 名前 (name)

Unit 1 ようこそ、日本の学校へ

Unit 2 みんな友達

まとめと練習① be 動詞

学び方コーナー① 文の書き方

Unit 3 はじめまして、ブラウン先生

まとめと練習② 一般動詞

Listening Plus 1 何のCM?

Unit 4 楽しい昼休み

Multi Plus 1 自己紹介

1-2

Unit 5 お祭り大好き

Unit 6 ベッキーのおばあちゃん

まとめと練習③ 三人称単数現在形

Listening Plus 2 友達のプロフィール

Speaking Plus 1 電話での応答

Unit 7 サンフランシスコの学校

Writing Plus 1 学校のホームページ

Listening Plus 3 海外旅行

英語の歌

Sing

Take Me Out to the Ball Game

Unit 8 ナンシーに会いに

まとめと練習④ 代名詞

学び方コーナー② 音の変化

Writing Plus 2 グリーティングカード

Unit 9 ケーブルカーに乗って

まとめと練習⑤ 進行形

Listening Plus 4 電車のトラブル発生

Speaking Plus 2 道案内

Multi Plus 1 一日の生活

1 - 3

Unit 10 観光地から

まとめと練習⑥ 疑問詞

学び方コーナー③ 発音記号

Speaking Plus 3 ちょっとお願い

Unit 11 一年の思い出

まとめと練習⑦ 一般動詞の過去形

Listening Plus 5 休暇中の出来事

Speaking Plus 4 保健室での会話

Writing Plus 3 絵はがき

Let's Read Over the Horizon

名作鑑賞 How the Moon Got in the Sky

1 - 4

応用編

Word List

Bonus Word Box

英語の音とつづり

アルファベットの書き方

手紙・はがきの書き方

1年基本文・Plus 基本表現一覧

Welcome to San Francisco!

ローマ字[ヘボン式]の書き方

A Day in English

2 - 1

英語点字略字の解説 I

この教科書で学習するみなさんへ

本編

Warm-up A Speech and a Game

題材情報 Dogs with Jobs

Unit 1 Dogs with Jobs

Listening Plus 1 テレビ広告

Writing Plus 1 日記

題材情報 New Zealand

Unit 2 A Trip to New Zealand

Listening Plus 2 海外旅行

Speaking Plus 2 先生にお願い

まとめと練習① be 動詞のいろいろな働き

学び方コーナー① 辞書の使い方

Unit 3 My Future Job

Listening Plus 3 家事アンケート

Writing Plus 2 メール

Multi Plus 1 夏休み

Let's Read 1 A Magic Box

英語の歌①

I Just Called to Say I Love You

Stand by Me

2 - 2

英語点字略字の解説Ⅱ

本編

Unit 4 Homestay in the United States

Listening Plus 4 明日の天気

Speaking Plus 2 電話での応答

まとめと練習② 助動詞

学び方コーナー② 文の読み方

Unit 5 A New Language Service

Listening Plus 5 今日のニュース

Speaking Plus 3 道案内

Unit 6 The Story of an Old Clock

Listening Plus 6 昼休みの校内放送

Multi Plus 2 町紹介

Let's Read 2 Try to Be the Only One

英語の歌②

Grandfather's Clock

If We Hold on Together

2 - 3

英語点字略字の解説Ⅲ

本編

題材情報 We Love Movies!

Unit 7 My Favorite Movie

Listening Plus 7 映画ヒットチャート

Speaking Plus 4 買い物

Writing Plus 3 詩

まとめと練習③ 比較表現

学び方コーナー③ 賛成・反対のしかた

Multi Plus 3 好きなこと・もの

Let's Read 3 Can Anyone Hear Me?

応用編

名作鑑賞 I'll Always Love You

2 - 4

応用編

Word List

Bonus Word Box

場所・名所

買い物

対で覚える形容詞

基本動詞の活用

形容詞・副詞比較変化表

不規則動詞変化表

2年基本文・Plus 基本表現一覧

1・2年 基本表現のまとめ

巻末口絵

ジェスチャー

Useful Expressions

3 - 1

英語点字略字の解説IV

この教科書で学習するみなさんへ

本編

Warm-up A Speech and a Game

Unit 1 Sign Language

Listening Plus 1 ボランティア活動

Multi Plus 1 文化紹介

Unit 2 A Fireworks Festival

Listening Plus 2 コンサート会場から

Writing Plus 1 手紙

題材情報 Scenes from Africa

Unit 3 Fair Trade Chocolate

Listening Plus 3 ガーナについて知ろう

Speaking Plus 1 映画へのさそい

まとめと練習① 過去分詞	
3 - 2	
英語点字略字の解説V	
本編	
Multi Plus 2 修学旅行	
Speaking Plus 2 食事の会話	
Let's Read 1 A Mother's Lullaby	
英語の歌①	
Puff (The Magic Dragon)	
Hero	
Unit 4 Learn by Losing	
Listening Plus 4 英語落語家への道	
Speaking Plus 3 道案内	
まとめと練習② 不定詞	
学び方コーナー① 文章のまとめ方	
3 - 3	
英語点字略字の解説VI	
本編	
Unit 5 Electronic Dictionaries — For or Against	
Listening Plus 5 優先席にすわってもよい？	
Speaking Plus 4 電話での応答	
Unit 6 Break the Barrier	
Listening Plus 6 20世紀のスター	
Writing Plus 2 レポート	
まとめと練習③ 後置修飾	
学び方コーナー② 5つの文構造	
Writing Plus 3 スキット	
Multi Plus 3 になりたい職業	
3 - 4	
英語点字略字の解説VII	
本編	
題材情報 Traveling with Books	
Let's Read 2 Roy Brown — Boy Detective	
英語の歌②	
Take Me Home, Country Roads	
We Are the World	
題材情報 Stop Global Warming	
Let's Read 3 An Artist in the Arctic	
応用編	
Futher Reading	

1. Ambassador of Laughter
2. E-mail from Grandma
3. My Friends, My Heroes
4. Languages in Danger

名作鑑賞 The Fall of Freddie the Leaf

3 - 5

応用編

Word List A - Q

3 - 6

応用編

Word List R - Z

Bonus Word Box

いろいろな前置詞

数の読み方

形容詞・副詞比較変化表

不規則動詞変化表

3年基本文・Plus 基本表現一覧

1～3年 基本文のまとめ

1～3年 基本表現のまとめ

巻末口絵

ことわざ

Let's Chat!

### (3) 資料編の構成

資料編 第1巻 (英語点字の入門)

英語点字の入門について

- ① 点字の配列表
- ② アルファベットと発音
- ③ ローマ字の書き方
- ④ 句読符と点字独特の記号
- ⑤ 発音記号の書き方
- ⑥ 音節の区切り方
- ⑦ 主な接頭辞と接尾辞
- ⑧ 英語点字略字の解説 I
- ⑨ 英語点字略字の解説 II
- ⑩ 英語点字略字の解説 III
- ⑪ 英語点字略字の解説 IV
- ⑫ 英語点字略字の解説 V
- ⑬ 英語点字略字の解説 VI
- ⑭ 英語点字略字の解説 VII

- ⑮ 英語点字略字段階別一覧表
- ⑯ 英語点字略字アルファベット順一覧表
- ⑰ 英語点字略字字形別一覧表

資料編 第2巻（英語の基本的知識）

英語の基本的知識について

- ① 英語の発音方法
- ② 英語の発音と綴り字
- ③ 英語の基本文例
- ④ 英語の修飾語と修飾される語との関係
- ⑤ 語源から単語を覚える方法
- ⑥ 中学基本英単語・熟語（品詞別・類別）
- ⑦ 国名・地域名などに関する語

資料編 第3巻（英会話のための用例と単語）

- ① 英会話の用例
  - (ア) 紹介
  - (イ) 学校案内
  - (ウ) 盲学校と点字
  - (エ) 通学と寄宿舎
  - (オ) ある日の英語の授業
  - (カ) 学校給食
  - (キ) 盲人スポーツ紹介
  - (ク) 夏休みの思い出
  - (ケ) 修学旅行にて
  - (コ) 将来の夢
- ② 英会話で活用できる単語
  - (ア) 盲学校で使われる身近な語
  - (イ) 体の部分と健康に関する語
  - (ウ) 衣食住に関する語
  - (エ) 自然現象に関する語
  - (オ) 環境に関する語
  - (カ) 人間関係に関する語
  - (キ) 情報に関する語
  - (ク) 国名・地域名に関する語
  - (ケ) 頭字略語

資料編 第4巻（英和単語集Ⅰ）

英和単語集について

A～F

資料編 第5巻（英和単語集Ⅱ）

G～R

資料編 第6巻（英和単語集Ⅲ）

## S～Z

資料編第4・5・6巻の「英和単語集」については、ホームページで載せている単語を綴りのみ紹介した。

### (1) 目次内における配列

1. 「目次 1-1」などは9マス目から書き始めた。「本編」「応用編」は7マス目より書き始めた。
2. 以下のものは1マス目から書き始めた。
  - ・ Warm-up, Unit, Listening Plus 等
  - ・ まとめと練習, 学び方コーナー, 英語の歌
  - ・ 巻頭及び巻末口絵の項目
  - ・ この教科書で学習するみなさんへ
  - ・ 英語点字略字の解説(2・3年のみ)
  - ・ 応用編の項目(例: 名作鑑賞)。その数字は省略し, 1マス目から項目を書き始めたが, 3年の Further Reading のタイトルには数字を付した。
3. 2. で挙げたものの表題等(例: 1年「ようこそ, 日本の学校へ」)は行を変えて, 3マス目から書き始めた。表題が長くて2行にわたる場合は, 2行目を2マス下げて続けた。表題とページ数との間は2の点の連続線を引いた。なお, 表題が英語の場合でも外国語引用符は使っていない。(6の点が付されているので, 外国語の体系であることが分かるため)

### (2) 「この教科書で学習するみなさんへ」での配列

ここでは, 次のように点訳している。

□□□□□□□□この教科書で学習する

□□□□□□□□□□みなさんへ

□□□□□□本編

□□この教科書の本編は, Unit と

Plus の…

□□□□ Unit

□□全部で…

□□□□ Plus

□□総合的な…

□□ Listening Plus □●●●□リアルな場面の聞き取り

□□ Warm-up □●●●□中学校英語学習への導入

□□□□□□応用編

□□本編の…

□□□□□□□□使われている主な記号について

□□代入□●●●□基本文の代入練習(2・3年)

□□ Your Turn □●●●□コミュニケーション活動

□□ Tool Box □●●●□活動に役立つ単語・表現集

□□ Sound Box □ ◡ ◡ ◡ ◡ 発音練習のコーナー

語句の太字、▼及び Read と Write は省略し、Listen と Speak は文字で書いてある。発展については該当箇所以示してある。ヘッドフォンマークだけの Listen は文章のみ3マス目から書き始めた。

(3) 本文における見出し

1. 9マス目から書き始めたもの

目次で1マス目から書き始めたものは、本文では9マス目から書き始めた。また、そのタイトルも改行して、9マス目から書き始めた。長くて2行にわたる場合には2行目を2マス下げて続けた。なお、Unit や Speaking Plus 等やタイトルが英語であっても外国語引用符は使っていない。

2. 7マス目から書き始めたもの

1年における Part 番号、またその Part での目的を表す日本語は7マス目から書き始めた。(例：1年 Part 1, あいさつをしよう) その他、まとめと練習の■のあとの説明及び「確かめよう」・「やってみよう」、2・3年での Show and Tell, Jigsaw Reading, What am I?, Starting Out, Dialog, Reading for Communication, Review 等や▶のあとにある文章、Speaking Plus における「モデル対話」や「場面」という言葉は7マス目から書き始めた。Multi Plus における目標と復習も7マス目から書き始めた。

3. 5マス目から書き始めたもの

一言メモ, Hop, Step, Jump, Challenge, STEP1～3, Tool Box, Your Turn, Listen, Speak, Sound Box, Multi Plus のポイント, Challenge 中の Did you know? Let's Try は5マス目から書き始めた。「まとめと練習」中の A, B, C も5マス目から書き始めた。「まとめと練習」内にある囲みの文章は、線では囲わずに5マス目からタイトルを書き始めた。

本文の点訳は次のような順番で点訳している。

- ① 見出しの上のリード文
- ② 見出し
- ③ 語句
- ④ 本文
- ⑤ 基本文
- ⑥ 基本練習又は代入
- ⑦ 一言メモ又は発音

\* Listen, Your Turn がある時は、一言メモや発音はそれらのあとに置く。

本文は原典において1行あいているときは、点字教科書においても行あけした。

本文におけるイタリック体の語句は、第1・2学年にあつてはコーテーション・マーク(◡～◡)でくくり、第3学年にあつてはイタリック符(◡～)を前置した。

登場人物名が日本語であるときは、次のようにした。

(例：1年 p.44)

□□ Mrs. Brown ◡ ◡ ◡ ◡ Five cups of juice, please.

□□ テンイン OK. That's five hundred and fifty yen, please.

#### (4) 語句

「語句」は、本文の前（リード文のあるときは、リード文のあと）に置き、語（句）ごとに改行した。フルスペリング、(□□□□を記してから) 新出略字の順とした。語（句）に訳語が付されているときは、その訳語を第1カギ(〃～〃) でくくり、訳語中の( ) は第1カッコ(〃～〃) で、[ ] は第2カッコ(〃〃～〃〃) でくくった。

原典において、語、縮約形、熟語の変わるところに点線が引いてあるが(例：1年 p. 20)、点字教科書においては1行あけた。

「語句」や Tool Box の単語中の「単語の中で最も強く発音するところ」を示す▼(例：1年 p. 21, eraser の a に付されている▼) は省略した。

#### (5) 基本文

基本文(例：1年 p. 14 I am Sakura.) の左または右に書かれている説明文は、基本文のあとに記した。基本文の前の行と説明文のあとの行に②の点を10マス入れた。

#### (6) その他の点字触読上の配慮

[a] 2年、3年において、基本文とその説明文のあとにある代入は、区別する必要がある場合(例：2年 p. 58) は、「代入1」「代入2」のようにした。

[b] 「基本練習」に付されている強弱を示す●、●は、省略した(例：1年 p. 20)。

「代入」で使われているスラッシュはコンマ(,) に、斜体字にはしていない。

[c] Sound Box 内の上げ調子を示す(ノ), 下がり調子を示す(ソ)(例：1年 p. 70), 音のつながりを示すために下に付されている弧線(例：2年 p. 27), 「単語の中で最も強く発音するところ」を示す▼(例：2年 p. 63), 文の区切りを示す/ (例：2年 p. 17) は、点図で表記した。

[d] ページ欄外下の発音は、次のように示した。☆は発音と書いてある。

(例：1年 p. 38)

□□□□ハツオン

□□□□ h ow n ow

□□□□発音しない□□□□ bom b

[e] リード文のあとにある白抜きの?は省略し、日本語の終わりを。から?に変えた。

[f] 下線をしめす記号(〃〃〃～〃〃〃) は、3年から使い始めた。

[g] 注の付け方については、3通りある。Challenge の Notes は本文の該当箇所に注記号(星印)を前に付け、本文が終わったあと1行開けて日本語を載せた。単独の文に注がついている場合には、注がついている語(句)を外国語引用符ではさみ、次の行の5マス目から書き始め、日本語を第1カギにはさんで示した。2年の33pのような場合には注記号はつけずに、文章が終わった次の行に5マス目から注をレ下がりではさんで書き、次の行から英語には外国語引用符をつけずに、日本語には第1カギではさんで書いた。

#### (7) WORD LIST

WORD LIST の訳語は第1カギ(〃～〃) で、訳語中の( ) は第1カッコ(〃～〃)

で，〔 〕は第2カッコ（⠠⠠⠠～⠠⠠⠠）で，【 】は第2カギ（⠠⠠⠠～⠠⠠⠠）でくくった。

WORD LIST の品詞表示は，次のように表記している。

名詞 = (メイ)

動詞 = (ドー)

形容詞 = (ケイ)

副詞 = (フク)

代名詞 = (ダイ)

助動詞 = (ジョ)

接続詞 = (セツ)

前置詞 = (ゼン)

間投詞 = (カントー)

冠詞 = (カンシ)

原典において，特に覚えたい語であることを示す太字，「学習指導要領」で指定されている語であることを示す◆，既習学年やページを表す数字は省略した。

(8) 表紙見返しの記事，及び写真，さし絵，図などの扱い

各学年の表紙見返しの記事，及び写真，さし絵，図などは，内容と直接かかわりのある教材の個所に移したことがある。「2. 編集の具体的内容，(2) 各巻における内容の配列」を参照されたい。

(9) 英語の歌

表題と歌詞の間は，1行空ける。歌詞は，詞の行ごとに1マス目から書き始め，長くて1行に書ききれない場合は，次の行を2マス下げて書き続ける。

(10) ページ数

各 Unit など（本文においては9マス目より書き始め，それが終わったときは，2・5の連続線を10マス引いてあるもの）は，それが変わるごとにページを変える。

1-1~3，2-1~3，3-1~4は目次の次から1ページを打ち始めた。目次は目次1として打ち始めた。1-4，2-4，および3-5~6のWORD LISTも，同様に目次の次から1ページを打ち始めた。

点字教科書のページは，奇数右ページの右上欄外に示した。また，原典のページは奇数右ページの左上欄外に⠠～⠠にはさんで示した。その場合原典のページは各学年とも，WORD LISTの前までのものを示す。

なお，「資料編」のページの打ち方は，第1巻，第2巻及び第3巻についてはそれぞれ「1. 点字の配列表」，「1. 英語の発音方法」，「1. 英会話の用例」からページを改め，第4・5・6巻の英和単語集については通しページとした。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	表紙裏		削除 修正 追加	写真は省略し、サンフランシスコの地図を点図にした。いろいろなUnitで出てくるので、4巻に移した。本文に関連するジャパントウン、AT & Tパーク、キャンドルスティックパークの説明を追加した。	盲生徒の実態に即して
	11		修正	色とものの組み合わせは、表にせず、6つの色と5つのものの組み合わせをする形に変更した。	盲生徒の実態に即して
	13		削除	Your Turnの指示文だけ生かし、墨字の書き方についての部分は省略した。	盲生徒の実態に即して
	14		修正	イラストを人名になおした。 (以降、人名が明記されていない場合 同様に処理した。)	盲生徒の実態に即して
	14		修正	下線部は空欄記号になおした。 (以降、同様に処理した。)	盲生徒の実態に即して
	19		修正	下線部は外国語引用符になおした。	盲生徒の実態に即して
	20	基本練習	修正	イラストの状況の説明を追加した。 例 近くのボール 1. 近くの机 2. 遠くの犬	盲生徒の実態に即して
	20	欄外	修正	発音は、発音記号を先に書き、単語をあとに書いた。	盲生徒の実態に即して
	21	Listen	修正	イラストの状況の説明を追加した。 1. 健のノート a. ケイトが健に向かって差し出しているノート b. 離れた机にのっているノート 2. ケイトのかさ a. ケイトの手元にあるかさ b. ケイトから離れたところにあるかさ	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	22	基本練習	修正	イラストの状況の説明を追加した。 例 遠くのレストラン 1. 近くのネコ 2. 遠くの車	盲生徒の実態に即して
	23	Listen	修正	指示文を変更した。 何かを（ ）に書きましょう。 → 何かを答えましょう。	盲生徒の実態に即して
	24	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	26	やってみよう	修正	2の[ ]は第1カッコになおした。	盲生徒の実態に即して
	27	文の書き方	修正	文章を点字にあわせた。 ② 小文字1字分くらい → 1マス ④ 単語と…2字分くらい → 1マス	盲生徒の実態に即して
	28	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	29	Listen	修正	指示文を変更した。 自己紹介の英語を聞いて、次の表を… → 自己紹介の英語を聞いて、あとの3点について聞き取りましょう。	盲生徒の実態に即して
	30	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	32	基本練習	修正	○と×がついているイラストを次のように変更した。 [例] like (好き) soccer (嫌い) tennis → I like soccer, but I don't like tennis.	盲生徒の実態に即して
	34	一般動詞の使い方	修正	囲みの中の○と×がついている文を次のように変更した。 (間違い) I (am) play soccer. (正しい) I play soccer.	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	35		削除	Listening Plus 1 の STEP 1 のイラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	36	基本練習	修正	シルエットは言葉に置きかえた。	盲生徒の実態に即して
	37	Listen	修正	写真は省略し、指示文を次のように変更した。対話を聞いて、次のものが何かを書きましょう。	盲生徒の実態に即して
	37	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 [例] にならって対話をしましょう。	盲生徒の実態に即して
	38	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	40	ポスターの写真	修正	ポスターの写真は次のような説明をつけた。 世界の朝食 和定食 = ごはん, みそ汁, 焼き魚, 冷や奴のり, 漬け物 中華粥 フォー (米粉からつくるベトナムの麺) カレーとナン (平たく焼いたパン) イングリッシュ・ブレックファスト = パン, ベーコン・エッグ, 紅茶 ウェボス・ランチェロス (トルティーヤにインゲン豆で出来たペーストを塗り, その上に目玉焼き, さらにソースをかけたメキシコ料理)	盲生徒の実態に即して
	40	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	44	基本練習	修正	イラストを言葉に置きかえた。 例 2つの机 1. 3つのボール 2. 4つの箱	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項						
1	45	Listen	削除 修正	イラストは削除した。 指示文と表を次のように変更した。 対話を聞いて、彩とトムが注文したものの数と合計金額をまとめましょう。 1. 彩 2. トム  hot dog = ¥150 hamburger = ¥120 orange juice = ¥100 ¥ は円の記号です。	盲生徒の実態に 即して						
	45	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen でまとめたものを使って、本文を参考にして注文のやりとりをしましょう。	盲生徒の実態に 即して						
	46	基本 練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に 即して						
	47	Listen	修正	指示文と表を次のように変更した。 対話を聞いて、ケイトと健が持っている品物とその数をまとめましょう。  CD <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>ケイト</td> <td></td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>健</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </table>	ケイト		15	健	10		盲生徒の実態に 即して
	ケイト		15								
	健	10									
	48	基本 練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に 即して						
50	基本 練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に 即して							
51	写真	修正	写真の説明を、本文と基本文の間に挿入した。 写真の説明 写真1 ナンシーは中華料理を食べています。 写真2 ナンシーはテニスをしています。 写真3 ナンシーはドライブをしています。 写真4 ナンシーはピアノをひいています。	盲生徒の実態に 即して							

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	5 1	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 (点字該当) ページにある4枚のナンシーの写真の説明を読んで、彼女についてわかることや想像できることを、出来るだけたくさんいしましょう。	盲生徒の実態に即して
	5 2	基本練習	削除修正	イラストは削除した。 指示文を次のように変更した。 例にならって対話をしましょう。 [例] Tom, play soccer (サッカーをする) (マル) Does Tom play soccer? Yes, he does. 1. Aya, speak English (英語を話す) (マル) 2. Kate, have a bike (自転車をもっている) (バツ)	盲生徒の実態に即して
	5 3	Listen	修正	指示文を次のように変更した。 対話を聞いて、健についてマルかバツかを、例にならってまとめましょう。 [例] サッカーをする バツ	盲生徒の実態に即して
	5 3	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen でまとめた内容をもとに、例にならって対話をしましょう。	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	54	基本練習	修正	指示文を次のように変更した。 例にならって対話をしましょう。 [例] Ms. Oka teach (教える) music (教えない) English → Ms. Oka teaches music. She doesn't teach English. 1. Ken live (住んでいる) in Japan (住んでいない) in America 2. Tom write (書ける) hiragana (書けない) kanji 3. Aya have (飼っている) a dog (飼っていない) a cat	盲生徒の実態に即して
	55	Listen	修正 削除	指示文の○と×は言葉になおした。 イラストは削除し、それぞれ言葉になおした。 1. テニス 2. 野球 3. ごはん 4. 納豆	盲生徒の実態に即して
	57	STEP 2	修正	指示文の○と×は言葉になおした。	盲生徒の実態に即して
	58	STEP 1	削除 修正	イラストは削除した。 イラストの人物を名前になおした。	盲生徒の実態に即して
	60	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	61	Listen	修正	指示文を次のように変更した。 対話を聞いて、[A]と[B]を結びましょう。	盲生徒の実態に即して
	62	基本練習	削除 修正	イラストは削除した。 時計の指す時間を言葉になおした。 [例] 9時20分 1. 12時30分 2. 3時15分	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	63	イラスト	削除修正	イラストは削除し、言葉になおした。 <b>WORLD CLOCK</b> 1. HONOLULU 12 p.m. 2. SAN FRANCISCO 2 p.m. 3. NEW YORK 5 p.m. 4. LONDON 10 p.m. 5. CAPE TOWN 12 a.m. 6. MOSCOW 1 a.m. 7. TOKYO 7 a.m. 8. SYDNEY 8 a.m.	盲生徒の実態に即して
	63	Listen	修正	指示文を次のように変更した。 対話を聞いて、各都市の時刻を例にならって書きましょう。 [例] 1. 東京 2. ニューヨーク 3. ロンドン	盲生徒の実態に即して
	63	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen でまとめた内容をもとに、例にならって対話をしましょう。	盲生徒の実態に即して
	64	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	66	基本練習	削除修正	イラストは削除した。 指示文を次のように変更した。 例にならって対話をしましょう。 [例] (好きなもの) pizza (好きではないもの) tacos → Which is your favorite, pizza or tacos? Pizza is. 1. (好きなもの) baseball (好きでないもの) tennis 2. (好きなもの) spring (好きでないもの) fall	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	70	STEP 2	修正	横長の表にはせずに、次のように項目ごとに点訳した。 食事 さくら ビーフ・チキン 一郎 ビーフ・チキン 食後の飲み物 さくら コーヒー・紅茶 一郎 コーヒー・紅茶 入れるもの さくら 砂糖・クリーム・ミルク・レモン 一郎 砂糖・クリーム・ミルク・レモン	盲生徒の実態に即して
	72	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	73	Listen	削除修正	イラストは削除した。 指示文を次のように変更し、絵の説明を加えた。 Listen の絵の説明を参考にして、… (トムの部屋の様子) 机の上にノートがあります。 ベッドのそばにボールがあります。 ピアノのそばにギターがあります。 ピアノの下にネコがいます。	盲生徒の実態に即して
	74	基本練習	削除修正	イラストは削除した。 [例]以下を、次のように点訳した。 [例] Tom □□ dog → Whose dog is this? It's Tom's. 1行あけて Aya □□ギター her father □□車 I □□ペン	盲生徒の実態に即して
	75	Listen	削除修正	イラストを削除し、言葉になおした。 カメラ かさ 帽子 靴	盲生徒の実態に即して
	75	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen に出てくるものについて、…	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	76	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	77	Listen	修正	指示文を次のように変更した。 対話を聞いて、それぞれの人物についてまとめましょう。 1 髪型は (長い, 短い) 名前 職業 2 髪型は (長い, 短い) 名前 職業	盲生徒の実態に即して
	77	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen の人物について…	盲生徒の実態に即して
	82	基本練習	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	83	Listen	削除 修正	イラストは削除した。 指示文を次のように変更した。 英語を聞いて、次の4人が何をしているか日本語で答えましょう。 Akiko Naoki Emi Keita	盲生徒の実態に即して
	83	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen の人物について、…	盲生徒の実態に即して
	84	基本練習	削除	イラストは削除した	盲生徒の実態に即して
	85	Listen	修正	指示文を次のように変更した。 対話を聞いて、次の4人が何をしているか答えましょう。 Rika Saki Yumi Maiko	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	85	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen の人物について, …	盲生徒の実態に即して
	86	基本練習	削除 修正	イラストを削除した。 指示文を次のように変更した。 [例] にならって, 掲示の意味を英語で言いましょ。う。 [例] 食事禁止 → Don't eat here. 1. 走るな。 2. 日本語厳禁	盲生徒の実態に即して
	87	イラスト	修正	イラストは削除し, 本文のあとに DO NOT BOARD IN THIS AREA を枠線で囲んだ。	盲生徒の実態に即して
	89	路線図	修正	路線図は点図で表した。	盲生徒の実態に即して
	90	地図	修正	地図は点図になおした。	盲生徒の実態に即して
	94	基本練習	削除 修正	イラストを削除した。 [例] 以下を次のように変更した。 play tennis Aya はテニスが出来るが, I はテニスが出来ない。 → Aya can play tennis. But I can't play tennis.	盲生徒の実態に即して
	95	Listen	削除 修正	イラストは削除した。 指示文を次のように変更した。 対話を聞いて, 次の4人の名前と上手にできるものを一致させましょ。う。 (人名) Kate Tom Ken Aya (上手にできるもの) ski skate play ice hockey snowboard	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	96	基本練習	修正	イラストを削除した。	盲生徒の実態に即して
	97	Listen	修正	指示文を次のように変更した。 対話を聞いて、トムと彩が演奏できる楽器にはマル、できない楽器にはバツと書きなさい。 トム ギター ピアノ フルート 彩 ギター ピアノ フルート	盲生徒の実態に即して
	98	基本練習	削除	イラストを削除した。	盲生徒の実態に即して
	101	口型図	修正	点図になおした。	盲生徒の実態に即して
	104	基本練習	削除	イラストを削除した。	盲生徒の実態に即して
	105	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen の情報をもとに、…	盲生徒の実態に即して
	107	Listen	修正	指示文を次のように変更した。 英語を聞いて、正雄が昨日何をしたのか書きましょう。	盲生徒の実態に即して
	107	Your Turn	修正	指示文を次のように変更した。 Listen の情報をもとに、…	盲生徒の実態に即して
	108	基本練習	削除	イラストを削除した。	盲生徒の実態に即して
	109	Listen	削除 修正	イラストは削除した。 指示文を次のように変更した。 トムと彩の対話を聞いて、トムについてマルかバツを答えましょう。 1. テレビをみた 2. 音楽を聞いた 3. 朝食を食べた	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
1	1 1 1	STEP 2	削除 修正	イラストは削除した。 指示文を次のように変更した。 番組の続きを聞いて、ジョニーがしたことをあとの3つから選びましょう。 a. 泳いだ b. テニスをした c. キャンプをした d. カンガルーを見た e. ラグビー (Rugby) を見た f. クッキーを買った	盲生徒の実態に 即して
	1 3 5	手紙	修正	表書きの形式と文面の形式は点図にした。	盲生徒の実態に 即して
2	5	Your Turn	削除 修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 (1) トムは11時に食堂で昼食を食べていた。 (2) トムは3時30分に居間で音楽を聴いていた。	盲生徒の実態に 即して
	1 0	STEP 1 A	削除 修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 (1) 午前中にしたこと — 友達と緑川へ行った (2) 昼食後にしたこと — 買い物に行き、何本か鉛筆を買った (3) 夜にしたこと — テレビでサッカーの試合を見た	盲生徒の実態に 即して
	1 0	STEP 1 B	削除 修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 (1) どこに行った — 川に行った (2) 何をした — 魚つりをした (3) どうだった — 楽しい時を過ごした	盲生徒の実態に 即して
	1 6	Review A	削除 修正	Aの図を削除し、次のような説明を加えた。 また、太線の下線部分と点線の下線部分をそれぞれ1( ), 2( )と表した。 (例) I(Kate)→ my grandmother 1 呼び方 — Grandma 2 あげたもの — book → I call my grandmother 1 (Grandma) I gave her a 2 (book). (1. 2. も同様)	盲生徒の実態に 即して



学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
2	44	Review A	削除修正	(2) 制帽をかぶった人がパスポートを見ている。 (3) カメラ禁止	盲生徒の実態に即して
	55	STEP 1	削除修正	ニュースの画面を削除し、次のような説明を加えた。 A. 日本人の教師が外国人に日本語を教えている。 B. 外国人の教師が日本人に英語を教えている。 C. レポーターは緑市役所の前で大人の男性にインタビューをしている。 D. レポーターは緑中学校の前で中学生の女の子にインタビューをしている。	盲生徒の実態に即して
	58	Listen	削除修正	絵を削除し、日本語の説明を加えた。 窓の近くに2枚の絵がはってあります。 ベッドのそばにギターが置いてあります。 ベッドの下にネコが2匹います。	盲生徒の実態に即して
	59	Your Turn	削除修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 [例] park 公園 1. hospital 病院 2. library 図書館 3. station 駅	盲生徒の実態に即して
	78	Review A	削除修正	辞典の絵を削除し、次のような説明を加えた。 辞典A：最も小さい 収録語数は約5,000 辞典B：中ぐらいの大きさ 収録語数は約60,000 辞典C：最も大きい 収録語数は約90,000	盲生徒の実態に即して
	78	Review B	削除	イラストは削除した。	盲生徒の実態に即して
	79	STEP 2	修正	指示文を次のように変更した。 各映画のジャンルを聞き取って、A～Eに合うものを(1)～(5)より選びましょう。 A A Beautiful Season B Last Planet C My Little Star D Treasure Mountain E Winter Forest	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
2	79	STEP 2	修正	(1) サイエンスフィクション (2) コメディ (3) サスペンス (4) アドベンチャー (5) ラブストーリー	盲生徒の実態に即して
3	6	Figure 1～3	削除 修正	絵を削除し、次のような説明文を加えた。 <b>Figure 1 の説明</b> ありがとう。(日本) — 左手の甲を上に向け、そこを右手の小指側の側面で軽くたたき上げるようにする。 <b>Thank you. (アメリカ)</b> — 右の手のひらを自分に向けて、その指をあごにつけ、手のひらが上を向くようにその手を相手の方に向けて前に出す。 <b>Figure 2 の説明</b> はじめて+会う=はじめまして はじめて—左手の甲に右手をのせ、右手の指を閉じて上げながら人差し指を伸ばす。 会う — 両手の人差し指を立てて、左右から寄せる。 <b>Figure 3 の説明</b> また+会う= <input type="text"/> また — 右手でこぶしを作って、人差し指と中指を伸ばしながら左に倒す。	盲生徒の実態に即して
	9	STEP 3	削除 修正	絵を削除し、次のような説明を加えた。 1. A. 8 : 10 B. 8 : 45 C. 9 : 00 D. 9 : 15 2. A. 車椅子の人を手伝う B. 電話をかける C. 海岸のゴミを拾う D. 公園のゴミを拾う	盲生徒の実態に即して
	18	Review A	削除 修正	絵を削除し、次のような説明文を加えた。 1. 中国の地図と女の子の絵 2. ベッドに寝ている男の子の絵 3. チケット売場に並んでいる人の絵	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
3	18	Review B	削除修正	カレンダーを削除し、次のような英語を加えた。 May 12 Concert City Music Hall 2:00 classical, movie songs 200 seats	盲生徒の実態に即して
	19	STEP 1	削除修正	絵を削除し、次のような説明文を加えた。 A. コンサート会場で観客が演奏を聞いている。 B. 東京ドームの前で多くの人が並んでいる。 C. コンサート会場の入り口でチケットを切ってもらっている。	盲生徒の実態に即して
	27	STEP 1	修正	地図とグラフは点図で表示した。	盲生徒の実態に即して
	27	STEP 3	削除修正	円グラフは削除し、グラフの説明を加えた。 グラフの説明 (円グラフの割合が多い順に並べてあります。ただし、Other は省略しています) A. Cacao beans Gold Wood B. Gold Cacao beans Oil C. Gold Cacao beans Wood	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
3	36	STEP 1	削除 修正	絵を削除し、日本語を加えた。 (例) ケーキ 1. ピザ 2. 水 3. スープ	盲生徒の実態に 即して
	48	Review A	削除	碁盤の図を削除した。	盲生徒の実態に 即して
	51	路線図	修正	路線図を点図になおした。	盲生徒の実態に 即して
	62	Unit 6	削除 修正	写真を削除し、写真に写っている次の人名を加えた。 (1) ヘレン・ケラー (2) 手塚治虫 (3) ローザ・パークス (4) レイチェル・カーソン (5) ジョン・レノン	盲生徒の実態に 即して
	62	Listen	削除 修正	絵を削除し、英語になおした。 1. watch 2. pen 3. water	盲生徒の実態に 即して
	67	STEP 3	削除 修正	写真を削除し、人名になおした。 A. オードリー・ヘップバーン B. エルビス・プレスリー C. ペレ	盲生徒の実態に 即して
	72	STEP 1	削除 修正	絵を削除し、次のような説明文を加えた。 1. A. 一生懸命勉強している。 B. テレビゲームで遊んでいる。 C. 勉強机で座ったまま眠っている。 2. A. ノートが開いている。 B. ノートの上にテレビゲーム機が置いてある。 C. ノートにテレビゲーム機がはさんで ある。	盲生徒の実態に 即して
	84 ～ 89	写真	削除	写真①～⑩を削除した。	盲生徒の実態に 即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	参考となる事項
3	90	Review C	削除	Cの問題を削除した。	盲生徒の実態に即して
	114	修学旅行	削除	写真を削除した。	盲生徒の実態に即して
	115	職業	削除	絵は削除した。 絵を削除し、その絵を意味する次のような日本語を加えた。 1. 銀行員 2. 理容師 3. 大工 4. 漫画家 5. 菓子職人 6. 料理人 7. 歯科医 8. 編集者 9. 農場主 10. 消防士 11. (旅客機の) 客室乗務員 12. 花屋 13. 庭師 14. 美容師 15. 通訳者 16. 弁護士 17. ニュース解説者 18. 看護師 19. 保育園教員 20. 事務員 21. 薬剤師 22. 写真家 23. 警察官 24. 獣医	盲生徒の実態に即して
	116	いろいろな前置詞	削除	絵を削除した。	盲生徒の実態に即して
	巻末口絵	絵	削除	「ことわざ」とLet's Chat!「おしゃべりのコツ」の絵を削除した。	盲生徒の実態に即して

### 3 参考資料 ～英語点字の入門～

英語の点字は、基本的には普通の文字と同じようにアルファベットと句読符から成っている。さらに、点字の読み書きを速くするために、点字独特の略字を加えている。そこで、中学部の第1学年ではアルファベットと句読符を学び、第2学年から第3学年が終了するまでの間に、7つの段階に分けて点字の略字を学ぶことになっている。高等部の教科書及びアメリカやイギリスの書籍では、これらの点字略字がすべて使われているので、中学部の間に、出てきた順序に従って十分に学んでおくことが必要である。この資料では、以下のように英語の点字の基本がまとめられている。資料編の1～6巻の内容については文部科学省のホームページで閲覧できる予定なので、そちらを参照して頂きたい。

- (1) 点字の配列表
- (2) 「アルファベットと発音」について、開設してある。
- (3) 「句読符と点字独特の記号」
- (4) 「発音記号の書き方」
- (5) から (11) は点字略字の第1段階から第7段階までの解説である。

#### (1) 点字の配列表

6点点字は、1825年にフランス人ルイ・ブライユ (Louis Braille) によって考案された盲人用触読文字である。英語では考案者にちなんで、点字のことをブレイル (Braille) といっている。6点点字は1マス6点であるから、64とおりの組合せとなる。ルイ・ブライユは、マスあけの記号を除いた63を次の7行に配列した。

第1行	⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
第2行	⠪	⠬	⠭	⠮	⠯	⠰	⠱	⠲	⠳	⠴
第3行	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻	⠼	⠽	⠾	⠿
第4行	⠫	⠼	⠽	⠾	⠿	⠻	⠼	⠽	⠾	⠿
第5行	⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
第6行	⠪	⠬	⠭	⠮	⠯	⠰				
第7行	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻				

1行目は、上の四つの点の組合せの15の中から、下がり記号と4・5の点だけの組合せを除いたものである。2, 3, 4行目は、1行目の記号にそれぞれ3の点、3・6の点又は6の点を加えたものである。5行目は、1行目と同じ形をそのまま下に下げたものである。このように1・4の点を用いない記号を下がり記号という。残りの13の

うち、3の点を含むものを6行目とし、4・5・6の点の組合せを7行目に配列した。

ルイ・ブライユは、フランス語のアルファベットに1、2行目と3行目の半分までを当てた。しかし、ここにはWがない。もともとWは、Uがダブった「ダブルU」か、Vがダブった「ダブルV」などとして扱われていたので、記号を当てなかった。後に、英国人の忠告を入れてWを加えたが、それが英語やドイツ語などのアルファベットにも使われるようになった。

5、6行目の下がり記号は、句読符として用いられ、7行目は、点字独特の記号として用いられている。数字は、1行目に数符を前置して表している。また、楽譜では、1行目から4行目までの最初の3個を除いたものを、それぞれの長さの音符に当てている。また、7行目の記号を、高さを表す音列記号として用いている。

英語の点字略字もこの表をもとに作られている。アルファベットの中からa、i、oを除いたものと、その他の記号から6行目の□⠠□及び7行目の記号を除いたものは、すべて一マスの略字として用いられている。また、7行目の□⠠□以外の六つも2マスの略字の前置点となっている。さらに、5行目の記号と□⠠□は、句読符として用いられている上に、下がり記号の略字としても用いられている。

なお、日本点字においても、考案者の石川倉次は、この表の1行目から5の点を含むものを除いてア行とし、それに3・5・6の点を組み合わせたものを加えて、その他の各行を作っている。

以上述べたことから、この配列表が点字記号の基礎であることは理解されよう。

## (2) アルファベットと発音

アルファベットは、東地中海地方で考案され、ギリシア・ローマ時代にヨーロッパ全域に広まった。今では世界各地で用いられ、日本語のローマ字や中国語の音声表記(ピンイン)などに用いられている。

英語では、普通、大文字と小文字が、活字体と筆記体の二とおりに表され、これらの4種類は、それぞれ26文字から成る。点字には、活字体と筆記体の区別はなく、大文字と小文字も次のように小文字に大文字符を前置するだけで区別している。

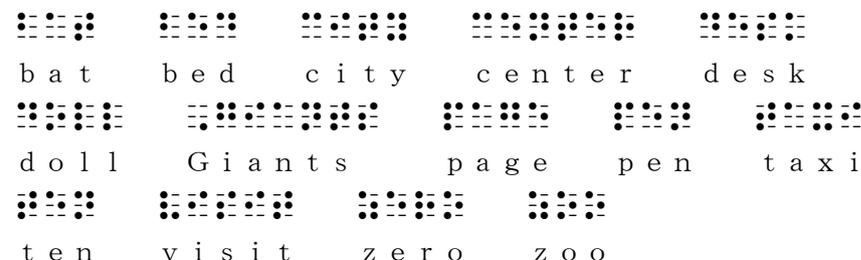
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥				
u	v	w	x	y	z				
⠠⠠	⠠⠡	⠠⠢	⠠⠣	⠠⠤	⠠⠥	⠠⠦	⠠⠧	⠠⠨	⠠⠩
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
⠠⠠	⠠⠡	⠠⠢	⠠⠣	⠠⠤	⠠⠥	⠠⠦	⠠⠧	⠠⠨	⠠⠩
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
⠠⠠	⠠⠡	⠠⠢	⠠⠣	⠠⠤	⠠⠥				
U	V	W	X	Y	Z				

これらを次の5グループに分けて、アルファベットと発音の関係を学ぼう。

① 長くのばすと「イー」になるもの

  
 b c d g p t v z

これらの読みから後ろの「イー」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)
   
 bat bed city center desk  
 doll Giants page pen taxi  
 ten visit zero zoo

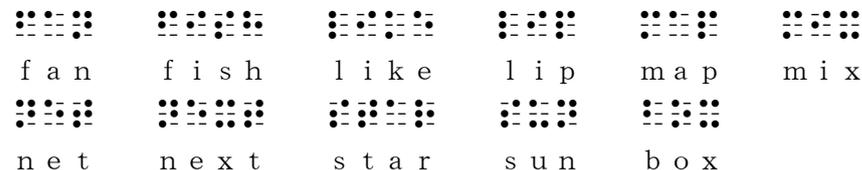
ただし、cには「ク」から「ウ」を、gには「グ」から「ウ」をとった発音がある。

(例)
   
 car cook gas golf

② 前に「エ」という音がつくもの

  
 f l m n s x

これらの読みから前の「エ」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)
   
 fan fish like lip map mix  
 net next star sun box

ただし、sは、濁る場合もある。

(例)
   
 lose news nose rise

③ 後ろに「エイ」という音のつくもの

  
 j k

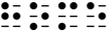
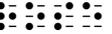
これらの読みから後ろの「エイ」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)
   
 jam joke key king

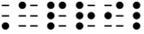
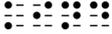
④ 英語の母音を表すもの

  
 a e i o u

これらが、アルファベットの読みと同じように発音されるとき、その後ろに発音されないeが子音をはさんでつくことが多い。

(例)      
 c a k e    f a c e    s c e n e    f i n e  
      
 l i f e    h o m e    r o s e    c u t e    u s e

ただし、発音しないeがついても読みが異なる場合と、eがつかなくても、これらと同じ発音を表す場合がある。

(例)      
 c o m e    d o n e    r u l e    A p r i l  
     
 k i n d    g o    h u m a n    m u s i c

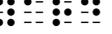
また、これらの文字は、単独又は二つ以上の組合せでいろいろな発音を表す。

(例)       
 b a t    e g g    i n k    p o t    p u t  
      
 m a i n    A u g u s t    s e a    b e a u t y    b e e  
      
 f i e l d    b o a t    c o i n    b o o k    p o o l  
    
 y o u n g    m o u n t a i n    f r u i t

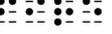
⑤ その他の文字

      
 h    q    r    w    y

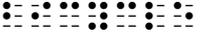
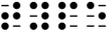
これらのうち、hは日本語のハ行に、rはラ行に、wはワ行に、yはヤ行に似た発音を表すこともある。

(例)        
 h a n d    h i n t    h o t    r e d    r i c e    r u n  
       
 w a x    w e t    w o o d    y a r d    y e s    y o u

これらの文字は、前のグループの文字と組み合わせて、長母音や二重母音又は三重母音を表す場合もある。

(例)       
 a h    o h    c a r p e n t e r    h a i r    f i r e  
      
 b o r n    t u r n    s a w    n e w    t o w n  
     
 d a y    e y e    b o y    p l a y e r

yにはiと同じ用い方があり、qはuと組み合わせて用いられる。

(例)      
 b i c y c l e    c i t y    m y    t y p e

queen quickly quite

hは他の文字に添えて別の子音をも表すことがある。

(例) church headache ghost enough  
 telephone she ship the  
 thanks white

⑥ 子音と子音の結び付き

日本語と違って、英語では次のような子音と子音の結び付きがみられる。

(例) back bank camp dress  
 little hand sky slip small  
 snow song spring stamp  
 strong swim text train

中でも、他の文字とlかrの組合せには、特に発音上注意を要する。

(例) block bread class cry close  
 cross fly fresh glass  
 grass play present

⑦ 発音されない綴り字

英語には、歴史的変化などで発音されない綴り字がある。

(例) bomb eight know lake  
 often Wednesday write

(3) 句読符と点字独特の記号

① 句読符 (Punctuation Marks)

英語の単語の綴りは続けて書き、単語と単語の間は1マスあけて書く。さらに、それ以上のまとまりが必要な場合、句読符を用いる。点字の句読符の使用法は、普通の文字の場合と同じである。そこでコンピュータのフルキーボードの場合も、その順

序に対応する記号のキーを打つだけでよい。

(ア) コンマ  □□ (,)

(comma)

最も短い句切りに用いる。

(例)



I can swim, too.

(私も泳げます。)

(イ) セミコロン  □□ (;)

(semicolon)

二つの文が重なってできた文の前の部分の終わりなどに用いる。

(例)



Mary drives a red car; Ken



drives a white one.

(メリーは赤い車を運転し、ケン は白い車を運転する。)

(ウ) コロン  □□ (:)

(colon)

セミコロンよりも大きな区切りに用いる。なお、固有名詞などの特別の場合を除けば、コンマやセミコロンの後ろは、1マスあけて小文字で書き始めるが、コロンの後ろは、1マスあけた後、文の初めと同じく再び大文字で書き始める。すなわち、シナリオなどの場合は、配役名などの後ろにコロンを打ち、1マスあけて、せりふを大文字で書き始める。

(例)



Mike: Thank you, Tom.

(マイク：トムありがとう。)

(エ) ピリオド  □□ (.)

(period)

文の終わりの区切りに用いる。

(例)



Do your best.

(あなたの最善を尽くしなさい。)

(オ) 疑問符  □□ (?)

(question mark)

疑問文の終わりの区切りに用いる。









④ 英語と日本語の記号の相違点

仮名文字の数は、アルファベットの二倍もあるので、句読符などを共通にすることは難しい。主な相違点は、次のとおりである。

(ア) コンマやセミコロンと読点や中点

コンマ（2の点）やセミコロン（2・3の点）は、促音符や古文の「ゐ」と重なるので、中点（5の点）や読点（5・6の点）は半マス後ろにずらしてある。また、中点や読点の用法は、コンマ・セミコロンのように厳密ではなく、点字は特にあいまいだった。

(イ) 英語の疑問符（2・3・6の点）と日本語の疑問符（2・6の点）

英語の疑問符は、enの略字□⠠□と重なるため、他の国とは別な記号□⠠□に変えている。

(ウ) コーテーションマークとかぎ類

⠠□□⠠ → ⠠⠠□□⠠⠠ または ⠠□□⠠  
“ ” 「 」 「 」  
⠠⠠□□⠠⠠ → ⠠⠠□□⠠⠠  
, ‘ ’ 『 』

などのように、英語と日本語の記号は異なっているが、撥音符の□⠠□(ん)と重なるのでやむを得ない。

(エ) 角括弧⠠⠠□□⠠⠠(英語)と⠠⠠⠠□□⠠⠠(日本語)

ワ行の「ワ」のため、点が上がっている。

(オ) ダッシュと棒線

□□⠠⠠□□ → □□ ⠠⠠ □□などと高さやマスあけが異なるが、  
ダッシュ 棒線

かぎや長音符との混同を避けるためやむを得ない相違点である。

(カ) エリプシスと点線

□□⠠⠠⠠⠠ → □□⠠⠠⠠⠠□□などと、その高さが異なっている  
エリプシス 点線

が、ワ行の「ワ」との混同を避けるためやむを得ない。

(キ) 文字符と外文字符及び外国語引用符

□⠠□は、英語では点字略字ではないアルファベットそのものであることを示すが、日本語では外国の文字であることを示し、意味が異なる。また、⠠□□⠠は、英語ではコーテーションマークだが、日本語では外国の語句や文字を表す記号である点が異なっている。

☆ 辞書や参考書又は試験問題などで、これらが混ざって出てきたとき、その使い分けを注意する必要がある。

(4) 発音記号の書き方

単語の発音を点字で表記する記号として、日本では Daniel Jones 式の発音表記を基に、1933年にイギリスで決められたものが使われている。現在、発音表記で一般的に使われている国際音声記号は、Daniel Jones 式と比較すると、記号の数だ

けでなく補助記号も多く使われている。そのため、教科書及びこの資料編では、従来よりの表記を採用している。なお、国際音声記号の点字表記については北米点字委員会（BANA）のホームページを参照して頂きたい。

① 発音記号に伴う符号

- (ア) 発音記号符  $\text{⠠}\square\text{⠠}$   
 発音記号の前後を囲む。
- (イ) 第一ストレス符 (primary stress sign)  
 $\text{⠠}$  (4・5・6の点)  
 最も強いアクセントの母音の前に置く。
- (ウ) 第二ストレス符 (secondary stress sign)  
 $\text{⠡}$  (4・5の点)  
 二番目のアクセントの母音の前に置く。

② 母音 (V o w e l)

- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ i : ] see [ s i : ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ i ] in [ i n ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ e ] bread [ b r e d ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ æ ] cat [ k æ t ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ a : ] father [ f á : ð ə r ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ a ] drop [ d r a p ] (米)
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ ɔ ] drop [ d r ɔ p ] (英)
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ ɔ : ] ball [ b ɔ : l ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ u ] foot [ f u t ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ u : ] moon [ m u : n ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ ʌ ] cup [ k ʌ p ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ ə : ] bird [ b ə : r d ]
- $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$  —  $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   $\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}\text{⠠}$   
 [ ə ] America [ ə m é r i k ə ]

⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ e i ]		face	[ f e i s ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ o u ]		go	[ g o u ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ a i ]		time	[ t a i m ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ a u ]		house	[ h a u s ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ ɔ i ]		boy	[ b ɔ i ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ i ə ]		here	[ h i ə r ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ e ə ]		hair	[ h e ə r ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ ɔ : ]		door	[ d ɔ : r ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ u ə ]		poor	[ p u ə r ]

③ 子音 (Consonant)

⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠
[ p ]		pen	[ p e n ]
⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ b ]		box	[ b ɑ k s ]
⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ t ]		tree	[ t r i : ]
⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ d ]		desk	[ d e s k ]
⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ k ]		clock	[ k l ɑ k ]
⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠
[ g ]		good	[ g u d ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ tʃ ]		chair	[ tʃ e ə r ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ dʒ ]		jump	[ dʒ ʌ m p ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ t s ]		let's	[ l e t s ]
⠠⠠⠠⠠	—	⠠⠠⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
[ d z ]		birds	[ b ɜ : r d z ]

⠠⠍	—	⠠⠍⠑	⠠⠍⠢⠊⠑
[m]		me	[m i :]
⠠⠢	—	⠠⠢⠑⠞	⠠⠢⠑⠞
[n]		net	[n e t]
⠠⠎	—	⠠⠎⠢⠎	⠠⠎⠢⠎
[ŋ]		sing	[s i ŋ]
⠠⠇	—	⠠⠇⠢⠇	⠠⠇⠢⠇
[l]		lily	[l í l i]
⠠⠋	—	⠠⠋⠑⠞	⠠⠋⠑⠞
[f]		four	[f ɔ : r]
⠠⠕	—	⠠⠕	⠠⠕
[v]		of	[a v]
⠠⠞	—	⠠⠞⠁⠎	⠠⠞⠁⠎
[θ]		thank	[θ æ ŋ k]
⠠⠔	—	⠠⠔⠢⠎	⠠⠔⠢⠎
[ð]		this	[ð i s]
⠠⠎	—	⠠⠎⠑	⠠⠎⠑
[s]		sea	[s i :]
⠠⠵	—	⠠⠵	⠠⠵
[z]		is	[i z]
⠠⠎	—	⠠⠎⠢⠎	⠠⠎⠢⠎
[ʃ]		ship	[ʃ i p]
⠠⠵	—	⠠⠵⠎⠁⠞	⠠⠵⠎⠁⠞
[ʒ]		usual	[j ú : ʒ u ə l]
⠠⠞	—	⠠⠞	⠠⠞
[r]		red	[r e d]
⠠⠞	—	⠠⠞⠁⠎	⠠⠞⠁⠎
[h]		hand	[h æ n d]
⠠⠞	—	⠠⠞⠁⠎	⠠⠞⠁⠎
[w]		woman	[w ú m ə n]
⠠⠵	—	⠠⠵	⠠⠵
[j]		yes	[j e s]
⠠⠞	—	⠠⠞⠁⠎	⠠⠞⠁⠎
[h w]		white	[h w a i t]

(5) 点字略字の解説 I

第2学年からは、アメリカやイギリスで現在普通に用いられている英語点字を学ぶ。第1学年で学んだアルファベットや句読符の外に、点字独特の略字を、よく出てくる単語や綴り字のグループを表すために用いる。点字略字は、主として読む速さ、特に黙読の速さを普通の文字を読む速さに近付けるために用いられている。さらに、書く速さは、略字を用いれば普通の文字を書く速さより断然速くなる。そこで、中学生のうちにその記号や使い方をマスターして高等部の教科書や外国の本を自由に読みこなし、英語を一層正確に速く書くことができるようになるろう。

① 1マスの短縮語(One-cell Whole-word Contractions)

(ア) アルファベットと同じ形のもの

⠠ — b u t    ⠠ — c a n    ⠠ — d o  
⠠ — e v e r y    ⠠ — f r o m    ⠠ — g o  
⠠ — h a v e    ⠠ — j u s t (ちょうど)  
⠠ — k n o w l e d g e (知識)    ⠠ — l i k e  
⠠ — m o r e    ⠠ — n o t    ⠠ — p e o p l e  
⠠ — q u i t e    ⠠ — r a t h e r (むしろ)    ⠠ — s o  
⠠ — t h a t    ⠠ — u s    ⠠ — v e r y  
⠠ — w i l l    ⠠ — i t    ⠠ — y o u    ⠠ — a s

(イ) その他の1マスの短縮語

⠠ — a n d    ⠠ — f o r    ⠠ — o f    ⠠ — t h e  
⠠ — w i t h    ⠠ — c h i l d    ⠠ — s h a l l  
⠠ — t h i s    ⠠ — w h i c h    ⠠ — o u t  
⠠ — s t i l l (まだ)

② 使い方

これら34語は、単語全体を1マスの記号で表す短縮語である。1マスであっても文字ではなく単語であるから、その前後ろを1マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

(ア) コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。



→  A nation is for the people's happiness.

(国家は人々の幸福のためにあるのです。)

(使ってはならない例)

 (He likes apples.)

のlikesをlsと書いてはならない。また、 (He goes out.)

のgoesをgesと書いてはならない。

 (Bill does not like the peoples.) のdoesをdesと書いてはならない。また、peoplesをpsと書いてはならない。

### ③ 学習のヒント

(ア) アルファベットと同じ形のもののうち、itとas以外は頭文字で表している。またa, i, oはそれだけで単語になるから略字には用いない。

(イ) do, go, like, peopleなどの短縮語は、1マスで語全体を表すから、活用語尾や複数の-s, -esが付く場合には、用いることができない。

(ウ) □□や□□などが、単語の一部を短縮する点字略字として用いられる場合については、後に学ぶ。

(エ) “b but, but b”などと、唱えて記憶するのもよい。

(6) 点字略字の解説Ⅱ

① 2マスの短縮語(Two-cell Initial-letter Contractions)

(ア) 5の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — d a y    ⠠⠠ — e v e r    ⠠⠠ — f a t h e r

⠠⠠ — h e r e    ⠠⠠ — k n o w    ⠠⠠ — l o r d (君主)

⠠⠠ — m o t h e r    ⠠⠠ — n a m e    ⠠⠠ — o n e

⠠⠠ — p a r t    ⠠⠠ — q u e s t i o n    ⠠⠠ — r i g h t

⠠⠠ — s o m e    ⠠⠠ — t i m e    ⠠⠠ — u n d e r

⠠⠠ — w o r k    ⠠⠠ — y o u n g    ⠠⠠ — t h e r e

⠠⠠ — c h a r a c t e r (性格)    ⠠⠠ — t h r o u g h

⠠⠠ — w h e r e

⠠⠠ — o u g h t (o u g h t t o ~ …すべきである)

(イ) 4・5の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — u p o n    ⠠⠠ — w o r d    ⠠⠠ — t h e s e

⠠⠠ — t h o s e    ⠠⠠ — w h o s e

(ウ) 4・5・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — c a n n o t    ⠠⠠ — h a d    ⠠⠠ — m a n y

⠠⠠ — s p i r i t (精神)    ⠠⠠ — w o r l d

⠠⠠ — t h e i r

② 使い方

これらの33語は、前置点と頭文字との2マスで表した短縮語である。これらの前後ろは、1マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

(ア) コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。

(イ) 大文字符、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。

(ウ) これらが語の一部であっても、元の発音を残し、意味が不明瞭にならない場合は、これらを他の綴りと続けて用いることができる。



→ Whose one is this?  
(これは、だれのものですか。)

→ The dog ran through the woods.  
(その犬は、森を走り抜けた。)

→ I cannot work there.  
(私は、そこでは働けない。)

→ Have you ever seen the young man?  
(今までにその青年に会ったことがありますか。)

→ May I ask you a question?  
(質問してもいいですか。)

→ Asia is a part of the world.  
(アジアは、世界の一部です。)

→ Sunday

→ everybody

→ someone

→ party

→ part-time

→ questions

→ sometimes

→ works

⠠⠠⠠⠠ → ch a r a c t e r s

⠠⠠⠠⠠ → w o r d s

⠠⠠⠠⠠ → s p i r i t s

⠠⠠⠠⠠ → t h e i r s

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → h a d n' t

⠠⠠⠠⠠ → n e v e r

(使ってはならない例)

f e v e r [f i : v ə r] (熱情) を⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※発音注意)

a t m o s p h e r e [æ t m ə s f i ə r] (雰囲気) を⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※発音注意)

e n a m e l [i n æ m ə l] (ほうろう) を⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。

(※発音注意)

c e n t i m e t e r [s é n t i m i : t ə r] を⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※音節注意)

b o u n d e r [b á u n d ə r] (成り上がり者) を⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※音節注意)

s w o r d [s ɔ : r d] (刀) を⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※発音注意)

### ③ 学習のヒント

(ア) 短縮語としての使い方は、2マスも1マスの場合と同じである。

(イ) ⠠⠠⠠⠠ (n a m e d), ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (s o m e t i m e s) などは、もとの発音を残し、意味も明瞭だから用いてもよいが、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (e n a m e l), ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (c e n t i m e t e r) などは、発音も異なり、音節や語の構成要素の区切り目を越えるので、単語の一部の短縮、すなわち、短縮部に用いることはできない。

(ウ) 「5の点にdは、d a y」などと友達と交替で当て合うのもよい。

(エ) 意味と関連させて記憶するのもよい。

(参考例)

⠠⠠⠠ (h e r e)      ⠠⠠⠠⠠ (t h e r e)      ⠠⠠⠠⠠ (w h e r e)

⠠⠠⠠⠠ (f a t h e r)      ⠠⠠⠠⠠ (m o t h e r)

⠠⠠⠠⠠ (m a n y)      ⠠⠠ (m o r e)

⋮ (c a n)    ⋮⋮ (c a n n o t)

⋮ (h a v e)    ⋮⋮ (h a d)    ⋮⋮⋮⋮⋮⋮ (h a d' t)

⋮⋮ (k n o w)    ⋮⋮⋮ (k n o w n)    ⋮ (k n o w l e d g e)

⋮ (t h i s)    ⋮⋮ (t h e s e)

⋮ (t h a t)    ⋮⋮ (t h o s e)

⋮⋮ (t h e y)    ⋮⋮ (t h e i r)    ⋮⋮ (t h e m)

⋮⋮⋮ (t h e i r s)

(7) 点字略字の解説Ⅲ 1マスと2マスの短縮部

① 1マスの短縮部 (One-cell Part-word Contractions)

(ア) 1マスの短縮部の中で、他に優先して用いられるもの

⠠⠠ — a n d    ⠠⠠ — f o r    ⠠⠠ — o f    ⠠⠠ — t h e

⠠⠠ — w i t h

(イ) 原則として、音節をまたがない限り、単語のどの部分にも用いるもの

⠠⠠ — c h    ⠠⠠ — g h    ⠠⠠ — s h    ⠠⠠ — t h

⠠⠠ — w h    ⠠⠠ — e d    ⠠⠠ — e r    ⠠⠠ — o u

⠠⠠ — o w    ⠠⠠ — s t    ⠠⠠ — a r    □⠠⠠□ — e n

□⠠⠠□ — i n

(ウ) 単語のはじめの部分には用いないもの

⠠⠠ — b l e    ⠠⠠ — i n g

② 2マスの短縮部 (Two-cell Final-letter Contractions)

(ア) 4・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠⠠⠠ — o u n d    ⠠⠠⠠⠠ — a n c e    ⠠⠠⠠⠠ — s i o n

⠠⠠⠠⠠ — l e s s    ⠠⠠⠠⠠ — o u n t

(イ) 5・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠⠠⠠ — e n c e    ⠠⠠⠠⠠ — o n g    ⠠⠠⠠⠠ — f u l

⠠⠠⠠⠠ — t i o n    ⠠⠠⠠⠠ — n e s s    ⠠⠠⠠⠠ — m e n t

⠠⠠⠠⠠ — i t y

(ウ) 6の点と組み合わせるもの

⠠⠠⠠⠠ — a t i o n    ⠠⠠⠠⠠ — a l l y

③ 使い方

これら34の短縮部は、単語の中のそれに対応する綴り字を、1マスか2マスの記号に縮めて表すために用いられる。これらは、原則として同一の音節内で用いられ、接頭辞と語根の間、語根と接尾辞の間及び複合語の各要素の間をまたいでは用いられない。さらに、これらの使用が、発音や意味の理解を妨げる場合には用いな

い。また、同じ場所で2つ以上の短縮部の使用が可能な場合には、マス数を節約できる方が選ばれる。マス数が同じであれば1マスの短縮部が優先される。中でも、a n d, f o r, o f, t h e, w i t hの短縮部は、他に優先して用いる。これらの1マスと2マスの短縮部は、一部の例外を除いて、原則として句読符や点字独特の記号と続けて用いる。これらの使い方の細目は次のとおりである。

(ア) 1マスの短縮部の場合

a n d, f o r, o f, t h e, w i t hの短縮部は、単語のはじめの部分、単語の中の部分及び単語の後ろの部分のどの部分にも用いることができる。また、2つ以上の短縮部が用いられる可能性があるときは、節約できるマス数が同じ場合、これらが優先して用いられる。これらの5つの点字略字の短縮語としての用法は、既に点字略字の解説Iで説明されている。これらは、1マスの短縮語として用いられる場合も、1マスの短縮部として用いられる場合も、これらに対応する綴り字は、全く同じであるが、用法は異なるので、混同しないように注意する必要がある。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠ — A n d r e w      ⠠⠠⠠⠠ — c a n d y

⠠⠠ — h a n d      ⠠⠠ — f o r m (型)

⠠⠠⠠⠠ — e f f o r t (努力)      ⠠⠠⠠⠠⠠ — o f f i c e

⠠⠠⠠ — s o f t      ⠠⠠⠠ — r o o f (屋根)

⠠⠠ — t h e n

⠠⠠⠠ — o t h e r      ⠠⠠⠠ — w i t h o u t (…なしに)

(使ってはならない例)

p r o f e s s o r (p r o - f e s - s o r) (教授) を⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※音節注意)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (s o u t h e a s t) は複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

(イ) ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ □⠠□ □⠠□の8つは、これらで表される短縮語と短縮部の用法は異なる。また、□⠠□以外の7つは、短縮される綴り字の範囲も、短縮語と短縮部で異なっている。c h, g h, s h, t h, w h, e d, e r, o u, o w, s t, a r, e n, i nの短縮部は単語のはじめの部分、単語の中の部分及び単語の後ろの部分のどの部分にも用いることができる。ただし、e n, i nの短縮部と短縮部などの下がり記号が2つ以上続く場

合には、前か後ろに1の点か4の点、又は1・4の点を含む記号がない限り、  
e n, i nを表す短縮部を用いない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠ → c h u r c h

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → c h i l d l i k e (子供らしい)

⠠⠠⠠ → g h o s t (幽霊)      ⠠⠠⠠⠠⠠ → e i g h t

⠠⠠ → s h e      ⠠⠠⠠⠠ → w a s h

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → f i s h e r m a n (漁師)

⠠⠠⠠⠠ → t h r e e      ⠠⠠⠠⠠⠠ → t e e t h (歯の複数形)

⠠⠠⠠ → w h a t      ⠠⠠⠠ → w h o

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → e d u c a t e (教育する)

⠠⠠⠠⠠ → l i k e d      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → c a t c h e r

⠠⠠⠠ → t o u c h      ⠠⠠ → o u r

⠠⠠ → o w n (・・・自身の)      ⠠⠠ → h o w

⠠⠠⠠ → b e s t      ⠠⠠⠠⠠⠠ → s i s t e r

⠠⠠⠠ → s t a r t      ⠠⠠ → a r m

⠠⠠⠠⠠ → a r e n ' t      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → w e r e n ' t

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → h a v e n ' t      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → E n g l i s h

⠠⠠⠠ → o f t e n      ⠠⠠ → i n k      ⠠⠠⠠ → t h i n k

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
→ H e r d r e s s i s m a d e o f f i n e l i n e n .  
(彼女のドレスは、上等の麻で作られている。)



(エ) 2マスの短縮部の場合

2マスの短縮部は、単語のはじめには用いない。単語の中の部分、単語の後ろの部分及び2行にまたがる単語の次の行のはじめに用いる。ただし、ハイフンやアポストロフの後及び接頭辞が加わって、単語の中の部分になった場合には用いない。また、2マスの短縮部は、短縮語として語全体を表すために用いることは決してない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠ → round    ⠠⠠⠠ → sound

⠠⠠⠠ → dance

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → a s s i s t a nce (手伝い)

⠠⠠⠠⠠ → danced    ⠠⠠⠠⠠ → dancer

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → t e l e v i s ion (テレビ)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → u s e less (役に立たない)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → mountain

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → country

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → s c ience

⠠⠠⠠⠠ → longer    ⠠⠠⠠⠠ → song

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → w o n d e r ful (すばらしい)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → f a i t h ful l y (忠実に)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → s e c tion

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → u s e ful n e s s (有用)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → m o m ent (瞬間)    ⠠⠠⠠⠠ → city

⠠⠠⠠⠠ → s t a tion    ⠠⠠⠠⠠ → r e a l ly

⠠⠠⠠⠠ → f i n a l l y (最後に)  
 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (※ここで行替えする場合)  
 ⠠⠠ → v i t a l i t y (活力)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (※ここで行替えする場合)  
 ⠠⠠⠠⠠ → f u n d a m e n t a l (根本的な)

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (a n c e s t o r 先祖) の a n c e は、語のはじめだから、  
 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (l e s s o n) も ⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (f u l f i l l 果たす) も、同じく ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (g r e y ' o u n d) (グレーハウンド種の) の o u n d  
 は、アポストロフィーの後だから、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (c o m - p l i - m e n t) (おせじ) の m e n t  
 は、ハイフンの後であるから、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (u n l e s s o n e d) (訓練されない) の l e s s は、  
 接頭辞の u n と結合して語の中の部分になったものであるから、  
 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠ (l e s s) (より少ない) は、独立した単語であるから、⠠⠠⠠⠠とは  
 書けない。

### ③ 学習のヒント

- (ア) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ □⠠□の6つは、単語の一部を表す短縮部と、語全体を表す短縮語の形が同じであるが、用法は異なる。
- (イ) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ □⠠□の7つは、これらが表す単語の最初の2文字と、短縮部が表す綴り字とは同じであるが、短縮語と短縮部の用法は、異なっている。
- (ウ) b l e と i n g を表す1マスの短縮部は、2マスの短縮部と用法が似ている。b l e や2マスの短縮部が語のはじめに用いられないのは、数符、イタリック符、大文字符、又は文字符などと混同されるのを避けるためである。また、ハイフンの後ろに、これらが用いられないのも、同じ理由によるものである。
- (エ) 2マスの短縮部は、一連の綴り字(多くは接尾辞)の最後の文字に3種類の点を前置したものである。
- (オ) 短縮部は、読み方から先に学ぼう。書き方を正確に学ぶためには、語源や接頭辞、接尾辞、又は音節の区切り方を学ぶ必要があるからである。

(8) 点字略字の解説Ⅳ 省略語 1

① 省略語 (Abbreviations)

(ア) 最初の2マスを残して後ろを省略する場合

⠠⠠ — a b o u t

⠠⠠ — a c c o r d i n g ( a c c o r d i n g t o ~ …によれば)

⠠⠠ — a f t e r    ⠠⠠ — a g a i n    ⠠⠠ — a l s o

⠠⠠ — b e c a u s e    ⠠⠠ — b e f o r e

⠠⠠ — b e h i n d (…の後ろに)    ⠠⠠ — b e l o w (下の方に)

⠠⠠ — b e n e a t h (…の下に)

⠠⠠ — b e s i d e (…のそばに)

⠠⠠ — b e t w e e n    ⠠⠠ — b e y o n d (…の向こうに)

⠠⠠ — b l i n d (目の見えない)    ⠠⠠ — e i t h e r

⠠⠠ — f r i e n d

(イ) 骨組みだけを残して、母音などを省略する場合

⠠⠠ — c h i l d r e n    ⠠⠠ — c o u l d

⠠⠠ — f i r s t    ⠠⠠ — g o o d

⠠⠠ — h i m    ⠠⠠ — i t s

⠠⠠ — l e t t e r    ⠠⠠ — l i t t l e

⠠⠠ — m u c h    ⠠⠠ — m u s t

⠠⠠ — p a i d (支払った)    ⠠⠠ — q u i c k

⠠⠠ — s a i d    ⠠⠠ — s h o u l d

⠠⠠ — s u c h    ⠠⠠ — t o d a y

⠠⠏⠗⠑⠗⠑ — t o m o r r o w    ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ — t o n i g h t

⠠⠏⠗⠑⠗⠑ — w o u l d    ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ — y o u r

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ — a b o v e (…の上に)    ⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ — a f t e r n o o n

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ — a f t e r w a r d (後で)

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ — a g a i n s t (…に向かって)

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ — b r a i l l e (点字)    ⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ — g r e a t

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ — t o g e t h e r

## ② 使い方

これら43語の省略語は、ひと続きに書き、行末でも切らない。また省略語の前後ろは、1マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

(ア) コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。

(イ) 大文字符、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。

(ウ) これらから派生した語の場合など、発音や意味を不明瞭にしない限り、接頭辞や接尾辞と続けて用いる。その際、その派生語が行末に書ききれないときには、つなぎ目で切り、行末にハイフンを添えるが、省略語そのものは2行に分けてはならない。

(使い方の例)

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑

→ Your friend must run after him.

(あなたの友達は、彼を追いかけねばならない。)

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑⠗⠑ ⠠⠏⠗⠑⠗⠑

→ Their children will go there before

lunch tomorrow.

(彼らの子供たちは、明日昼食前にそこへ行くだらう。)

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑ → besides (その上)

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑⠗⠑⠗⠑ → blindfold (目かくしをする)

⠠⠏⠗⠑⠗⠑⠗⠑⠗⠑ → friendly (親しい)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → g o o d - b y

⠠⠠⠠⠠ → l e t t e r s

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → m u s t n' t

⠠⠠⠠⠠⠠ → q u i c k e n (いそがせる)

⠠⠠⠠⠠⠠ → h e r e a f t e r (今後)

⠠⠠⠠⠠ → y o u r s

(使ってはならない例)

d r a f t e r [d r æ f t ə r] (d r a f t - e r) (製図器) を  
⠠⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※音節注意)

s h o u l d e r [ʃ ó u l d ə r] (肩) を⠠⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。  
(※発音注意)

### ③ 学習のヒント

- (ア) 省略語の使い方は、2マスの短縮語と原則的には同じである。
- (イ) 省略語を読み、その綴りを言ったり、逆に綴りを読みながら省略語を言うなどして記憶するのもよい。
- (ウ) 省略語は数も多いが、教科書に出てきた順序に記憶しておくのもよい方法である。
- (エ) 意味と関連させて整理するのもよい。

(参考例)

⠠⠠⠠ (b l i n d)      ⠠⠠⠠⠠⠠ (b r a i l l e)

⠠⠠ (c h i l d)      ⠠⠠⠠⠠ (c h i l d r e n)

⠠⠠ (c a n)      ⠠⠠⠠⠠ (c o u l d)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (c o u l d n' t)

⠠⠠ (s h a l l)      ⠠⠠⠠⠠ (s h o u l d)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (s h o u l d n' t)

⠠⠠ (w i l l)      ⠠⠠⠠⠠ (w o u l d)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (w o u l d n' t)

⠠⠠⠠⠠ (l i t t l e)      ⠠⠠⠠⠠ (m u c h)      ⠠⠠⠠⠠ (m a n y)      ⠠⠠ (m o r e)

⠠⠠⠠⠠ (a f t e r)      ⠠⠠⠠⠠ (b e f o r e)

⠠⠠⠠⠠ (b e t w e e n)      ⠠⠠⠠⠠ (b e h i n d)      ⠠⠠⠠⠠ (b e s i d e)

⠠⠃⠑⠇⠔⠠⠠ ( b e l o w )      ⠠⠃⠑⠇⠔⠠⠠ ( b e n e a t h )      ⠠⠃⠑⠇⠔⠠⠠ ( u n d e r )

⠠⠎⠁⠽⠠⠠ ( s a y )      ⠠⠎⠁⠽⠠⠠ ( s a i d )

⠠⠏⠁⠽⠠⠠ ( p a y )      ⠠⠏⠁⠽⠠⠠ ( p a i d )

⠠⠞⠔⠃⠁⠽⠠⠠ ( t o d a y )      ⠠⠞⠔⠃⠁⠽⠠⠠ ( t o m o r r o w )      ⠠⠞⠔⠃⠁⠽⠠⠠ ( t o n i g h t )

(9) 点字略字の解説V 省略語2

① 省略語 (Abbreviations)

(7) 最初の3マスを残して、後ろを省略する場合

⠠⠠⠠⠠ — a c r o s s    ⠠⠠⠠⠠ — a l m o s t

⠠⠠⠠⠠ — a l r e a d y    ⠠⠠⠠⠠ — a l w a y s

⠠⠠⠠⠠ — a l t o g e t h e r (全く)

⠠⠠⠠⠠ — a l t h o u g h (…だけれども)

⠠⠠⠠⠠ — i m m e d i a t e (直接の)

⠠⠠⠠⠠ — n e c e s s a r y (必要な)

⠠⠠⠠⠠ — n e i t h e r (n e i t h e r A n o r B  
AもBも～ない)

⠠⠠⠠⠠ — o ' c l o c k

⠠⠠⠠⠠ — p e r h a p s (たぶん)

(4) …s e l f, …s e l v e s が付く語の一部を省略する場合

⠠⠠⠠⠠ — m y s e l f    ⠠⠠⠠⠠ — y o u r s e l f

⠠⠠⠠⠠ — h i m s e l f    ⠠⠠⠠⠠ — h e r s e l f

⠠⠠⠠ — i t s e l f    ⠠⠠⠠⠠ — o n e s e l f

⠠⠠⠠⠠ — t h y s e l f (汝自身)

⠠⠠⠠⠠⠠ — o u r s e l v e s

⠠⠠⠠⠠⠠ — y o u r s e l v e s

⠠⠠⠠⠠⠠ — t h e m s e l v e s

(ウ) e を省いて現在分詞を作る語の一部を省略する場合

⠠⠠⠠⠠⠠ — c o n c e i v e ( 思 い つ く )

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — c o n c e i v i n g

⠠⠠⠠⠠⠠ — d e c e i v e ( だ ま す )    ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — d e c e i v i n g

⠠⠠⠠⠠⠠ — d e c l a r e ( 宣 言 す る )    ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — d e c l a r i n g

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — p e r c e i v e ( 気 が つ く )

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — p e r c e i v i n g

⠠⠠⠠⠠⠠ — r e c e i v e ( 受 け 取 る )

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — r e c e i v i n g

⠠⠠⠠⠠⠠ — r e j o i c e ( 喜 ば せ る )

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — r e j o i c i n g

## ② 使い方

これら33語の省略語も、ひと続きに書き、行末でも切らない。また省略語の前後ろは、1マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

(ア) コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。

(イ) 大文字、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。

(ウ) これらから派生した語の場合など、発音や意味を不明瞭にしない限り、接頭辞や接尾辞と続けて用いる。その際、その派生語が行末に書ききれないときには、つなぎ目で切り、行末にハイフンを添えるが、省略語そのものは2行に分けてはならない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

→ I ' m a l w a y s s l e e p y a f t e r l u n c h .

(私は、昼食の後は、いつも眠い。)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

→ I t ' s t w o o ' c l o c k n o w .

(今、2時です。)

→ Do it yourself.  
(自分でやりなさい。)

→ Everybody should look after themselves.  
(みな自分のことは自分でした方がいい。)

→ Do my eyes deceive me?  
(こんな事があり得るだろうか。)

→ You will receive your credit card in two weeks.  
(クレジットカードは2週間で受け取れるでしょう。)

(使ってはならない例)

preconceived [p r i : k ə n s í : v d] 語頭の低下略字 con で始まる縮語には接頭辞を付けることは出来ない。

### ③ 学習のヒント

- (ア) 省略語の使い方は、2マスの短縮語と原則的には同じである。
- (イ) 省略語を読み、その綴りを言ったり、逆に綴りを読みながら省略語を言うなどして記憶するのもよい。
- (ウ) 省略語は、中学の教科書ではあまり多く出てこないものが多い。教科書に出てきた順序に記憶しておくのもよい方法である。
- (エ) 意味と関連させて整理するのもよい。

(参考例)

⠠⠠ (b l i n d)      ⠠⠠⠠⠠ (b r a i l l e)

⠠ (c h i l d)      ⠠⠠⠠ (c h i l d r e n)

⠠⠠⠠ (e i t h e r)      ⠠⠠⠠⠠⠠ (n e i t h e r)

⠠ (c a n)      ⠠⠠⠠ (c o u l d)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (c o u l d n' t)

⠠ (s h a l l)      ⠠⠠⠠ (s h o u l d)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (s h o u l d n' t)

⠠ (w i l l)      ⠠⠠ (w o u l d)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (w o u l d n' t)

⠠⠠⠠ (l i t t l e)      ⠠⠠⠠ (m u c h)      ⠠⠠⠠ (m a n y)      ⠠⠠ (m o r e)

⠠⠠⠠ (a f t e r)      ⠠⠠⠠ (b e f o r e)

⠠⠠⠠ (b e t w e e n)      ⠠⠠⠠ (b e h i n d)      ⠠⠠⠠ (b e s i d e)

⠠⠠⠠ (b e l o w)      ⠠⠠⠠ (b e n e a t h)      ⠠⠠⠠ (u n d e r)

⠠⠠⠠⠠ (a l r e a d y)      ⠠⠠⠠⠠ (a l w a y s)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (s o m e t i m e s)

⠠⠠⠠ (e v e r)      ⠠⠠⠠⠠⠠ (n e v e r)

⠠⠠ (y o u)      ⠠⠠⠠ (y o u r)      ⠠⠠⠠⠠⠠ (y o u r s)

⠠⠠⠠⠠⠠ (y o u r s e l f)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (y o u r s e l v e s)

⠠⠠ (i t)      ⠠⠠⠠ (i t s)      ⠠⠠⠠⠠ (i t s e l f)

⠠⠠⠠⠠ (t h e y)      ⠠⠠⠠⠠ (t h e i r)      ⠠⠠⠠⠠ (t h e m)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (t h e m s e l v e s)





また、これを、w e r e n ' t , w a s n ' t のような派生語などの付け加えられた部分と続けることもできない。その上、下がり記号であるから、句読符やハイフンなどの他の下がり記号と続けることも許されない。大文字とイタリック符だけは、誤読のおそれがないから続けることができるのである。

- (イ) t o , i n t o , b y の3語の短縮語は、後ろに他の単語などを続けてはじめて成立するので、切ったらこれらの記号を用いられないのである。いずれにしても、句読符などは続けられないし、これらの前は、他の下がり記号の短縮語と同じく、大文字とイタリック符にだけ続けられるに過ぎない。なお、  
⋮⋮⋮や⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮などの場合は、もしb e やh i s の短縮語も用いると、すべてが下がり記号となるので、b e やh i s の短縮語は用いない。

(11) 点字略字の解説Ⅶ

① 下がり記号の短縮部 (Part-word Lower-sign Contractions)

(ア) 単語の始めの部分にだけ用いるもの

⠠⠠ — b e    ⠠⠠ — c o n    ⠠⠠ — d i s

⠠⠠ — c o m

(イ) 単語の中の部分にだけ用いるもの

⠠⠠⠠⠠ — e a    ⠠⠠⠠⠠ — b b    ⠠⠠⠠⠠ — c c

⠠⠠⠠⠠ — d d    ⠠⠠⠠⠠ — f f    ⠠⠠⠠⠠ — g g

② 使い方

句読符と同じように、1の点も4の点も含んでいない下がり記号の短縮語は、互いに続けられないことを既に学んでいる。e nとi nの綴り字を表す2つの短縮部だけは、下がり記号であっても、制限つきではあるが、他の1マスの短縮部と共に単語の終わりの部分にも用いることができた。しかしながら、ここで扱う10個の下がり記号の短縮部は、単語のはじめか中のどちらか1つの部分にしか使えず、その用法も厳しく制限されている。

(ア) b e, c o n, d i sを表す短縮部は、単語のはじめか2行にまたがる単語の次の行のはじめの音節に用いる。さらに、複合語のハイフンの後ろ及びダッシュやアポストロフィーの後ろに続けて用いる。また、大文字符やイタリック符の後ろに続けて用いる。

なお、これらは、単語のはじめの部分にだけ用いるものであるから、ハイフンの後ろや次の行のはじめにこれらの綴りだけがきてその単語が終わる場合には用いない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → b e l i e v e

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → d i s c o v e r (発見する)

⠠⠠⠠⠠⠠ → c o n c e r t (コンサート, 演奏会)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ → s e l f - c o n t r o l (自制)

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠ (b e s t) の b e は、独立した1音節ではないので、⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠ (d i s h) も、同じく⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (u n b e l i e v a b l e) (信じられない) の b e





### ③ 学習のヒント

下がり記号の短縮語と短縮部を、句読符と共に前後ろのマスあけの関係で関連付けて整理するとよい。

2の点は、前に続けるとコンマになり、前後ろに続けると e a の短縮部となる。しかし、後ろにだけ続けたり、前後ろをあけたりする場合はない。

2・3の点は、前に続ければセミコロン、前後ろに続けると b b の短縮部、後ろに続けると b e の短縮部、前後ろをあけると b e の短縮語となる。

2・5の点は、前に続けるとコロン、前後ろ続きが c c の短縮部、後ろ続きは c o n の短縮部となるが、前後ろあけはない。

また、2・5・6の点も、前続きは終止符、前後ろ続きは d d、後ろ続きは d i s の短縮部で、前後ろあけはない。

2・6の点は、前、前後ろ又は後ろに続ければ、e n の短縮部となり、前後ろあけは e n o u g h の短縮語となる。

2・3・5の点は、前に続ければ感嘆符、前後ろ続きが f f の短縮部、後ろ続きは t o の短縮語であるが、前後ろあけはない。

2・3・5・6の点は、前に続ければ閉じ括弧、前後ろ続きは g g の短縮部、後ろ続きは開き括弧となり、前後ろあけは w e r e の短縮語となる。

2・3・6の点は、前に続けば疑問符、後ろに続けばコーテーションマークの開き、前後ろあけは h i s の短縮語となるが、前後ろに続けるのはインナーコーテーションマークの開き程度である。

3・5の点は、i n を表すが、前後ろあけは短縮語、その他は短縮部である。

3・5・6の点は、前に続けばコーテーションマークの閉じ記号で、後ろに続ければ b y の短縮語、前後ろあけは w a s の短縮語となるが、前後ろに続けるのはインナーコーテーションマークの閉じ程度である。

最後に、3・6の点は、前に続けば行末のハイフン、前後ろに続ければ普通のハイフン。後ろに続けるのは c o m の短縮部となるが、前後ろあけはない。

### ④ 点字略字を学び終えて

これで、米英で普通に用いられている標準的な英語の点字を学ぶことができた。まず、点字略字を用いない英語の点字を学んだ後、2年以降、点字略字を含む英語の点字を7つの段階に分けて学んだ。最初の3つの段階は、単語全体を1マスや2マスの点字に短縮して表す短縮部であった。後の4つの段階は、母音などを省略して2～5マスの文字などで単語全体を表す省略語と下がり記号の短縮語と短縮部だった。

なお、これらの7つの段階に点字略字を整理して、次の章に段階別一覧表を掲げた。これで、米英の書籍や雑誌及び盲学校高等部の点字の教科書を自由に読むことができ、英文を速く正確に書くための基礎的能力を習得したことになる。更に、一層正確に書くためには本書の後半に掲載された規則に完全に習熟することが必要である。